

応援に感謝を伝えたい 「ようこそ」補助金スタート



「新たな交流やつながりが生まれることも期待したい」と制度にこめた思いを語る菅野村長

7月1日から、飯館村「ようこそ」補助金の制度がスタートし、4日、概要を発表する記者会見が行われました。この制度は、「ふるさと納税」の納税者と、「いいたてっ子未来基金」への寄付者が対象で、村を訪れていただく際の交通費の半額(片道分)を上限6万円まで補助します。補助額は、公共交通機関の利用料を元に村が算定します。菅野村長が、制度の概要を説明し、「多くの方の善意を形にしようと取り組んでいる。現況を見て、村のよさも感じていただければ」と語りました。

鈴木俊行先生を招いて 「苔玉教室」を開催しました



根元を土でくるんで苔を貼り付け、手順を見せる鈴木先生。大ぶりの苔玉に「すごいね」と歓声

7月1日、交流センター「ふれ愛館」で、村主催の「苔玉教室」が開かれました。植物の根を用土と苔で包んでつくる苔玉は、観賞用として人気の園芸。教えてくださるのは、樹木医の鈴木俊行先生です。鈴木先生のユーモアたっぷりの解説を聞きながら、23人が、苔玉づくりに挑戦しました。この日、用いた花は3種類で、配置のバランスや固定用の糸を巻くコツを教わりながら、それぞれに素敵な作品を完成。「楽しかった」「またやりたいね」と、互いの作品を鑑賞しました。

佐須地区滑の休耕地に ヒマワリ畑が広がりました



手塩にかけたヒマワリ畑で、「多くの人にぜひ楽しんでほしい」と話す阿部さん夫婦

今年も各地区の農業復興組合が、緑肥となる景観作物を、休耕中の田畑で栽培しています。7月中旬には、阿部勝男さん・セツ子さん夫婦(佐須)のヒマワリ畑が満開となりました。阿部さん夫婦は、約160アールの田畑に種をまき、イノシシよけの柵をめぐらせ、このヒマワリを大切に育ててきました。見頃を迎えてからは、早起きをして周囲の草刈りも行っています。佐須地区では、他にも多くの休耕地にヒマワリが植えられていて、道行く人の目を、長く楽しませています。

「いいたてホーム」で 職員らが安倍総理と懇談



菅野村長は「いいたてホーム」の家庭的な介護のようすや震災時の対応について説明しました

7月1日、安倍晋三内閣総理大臣が、特別養護老人ホーム「いいたてホーム」を訪れ、菅野村長、三瓶政美施設長、職員らと懇談しました。懇談では、三瓶施設長らが、震災後の経緯を伝え、利用者の安全を最優先に考え、避難せず施設を残したこと、その際「介護の質を落とさない」と職員らが申し合わせたことを紹介。また、現在の課題としては、人材確保の難しさを挙げました。総理は職員らの尽力に敬意を表し「人手の確保につながるよう制度の見直しを行いたい」と応えました。

プロの音楽家による 楽しい音楽のプレゼント



「すごい歌声だった」。夏休みを明日に控えた小学生・中学生も来場。村民歌と一緒に歌いました

7月20日、交流センター「ふれ愛館」で、「こころふれあいコンサート」が開かれ、会場を訪れた約150人が、ミュージカルの名曲や、イタリア歌曲、日本の唱歌など、バラエティ豊かなプログラムを楽しみました。このボランティアコンサートを全国で開いているのは、指揮者の大野和士さん。コンサートでは、楽しい音楽の話を変えながら、ピアノ伴奏を担当しました。プロの音楽家と一緒に、村民歌「夢大らかに」を歌う場面では、子どもたちも目を輝かせて胸をはり、共演を楽しみました。

安倍総理が「ゑびす庵」で 名物うどんを味わいました



「五目うどん」を試食する安倍総理(右から2人目)、吉野正芳復興大臣(右端)らと高橋さん夫婦

7月1日に来村した安倍総理は、「いいたてホーム」に続いて、手打ちうどん「ゑびす庵」を訪れました。「ゑびす庵」では、店を営む高橋義治さん(飯樋町)ら家族が出迎え、再開後のようすなどを伝えました。義治さんの妻で女将のちよ子さん(飯樋町)は、早期再開について尋ねられると、「大したことではありません。来てくださる皆さんに感謝です」と応じました。総理は、手打ちのうどんを美味しく味わい、「ご努力に敬意を表します。被災地の声を聞き復興を加速させたい」と語りました。